

「書道Ⅲ」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第3学年1～5組

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てます。 2 ささまざまな書を通して書の文化や伝統を尊重する気持ちを育てます。 3 1と2の学習を通して、自己を主体的に表現する能力と書的美しさを感じ取る鑑賞の能力を高めていきます。
使用教科書・副教材等	「書道Ⅲ」 (教育出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備 考 (学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)
第 1 学 期	1 自己表現への取り組み ・自己表現に適した古典の鑑賞と臨書 (漢字の書を中心に) ・さまざまな創作作品	4	ささまざまな古典の鑑賞を通して多様な表現があることをしる。 自己の表現したいものに適した古典を臨書することによって、その表現と技法を身に付ける。	各自が臨書する古典を選ぶことで、主体的に取り組む助けとする。 題材や構成等は各自で選択します。 今後必要となる履歴書等の記入にいかせるようにする。
		5	身近な言葉や詩文を題材に漢字・仮名・漢字仮名交じりの書の中から、作品を一つ完成させる。 多様な作品を鑑賞し、自分が作品として仕上げたいイメージをつかむ。また、以前臨書したことなどを生かし、多様な表現方法を理解させ、それ以外にも柔軟に自己表現としての書の作品を工夫させる。	
	6			
	7	日常的に用いる硬筆の書におけるポイントを知り、整った字を丁寧に書く習慣・技術を身につけさせる		
	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習課題は提出します。欠席するとその分の提出物がなくなります。 2 欠席した時の分は、次の授業の前までに提出すれば、提出物として受け取ります。 3 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返ります。			
	【第1学期の評価方法】 1 提出作品, 授業への遅刻欠席, 授業内で行われる小テスト, 用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%, 授業への参加状況(欠席・忘れ物・取り組み等)で10～20%の配分で行います。 3 提出作品については、意図した表現に近づくことが出来たか, また漢字の書(臨書)においては対象となる古典の特徴を表現出来たかが評価の基準となります。			

第 2 学 期	3	作品の表装 ・ 作品にあう印をつくる。 ・ 作品の表装と発表方法。	9	作品を表装し、発表するために必要なことを考えさせる。 作品を発表する喜びを味合わせる。	
	4	実用の書 ・ 芳名録の書き方	10	社会に出てから触れる機会の多い芳名録の書き方等を理解させる。	
	5	小作品を作る 漢字仮名交じりの書を 中心に	11	日常で用いられている言葉である漢字仮名交じりの文を書き作品として日常の中で飾ることができるように作品を作り、書をより身近なものとして感じさせる。	
			12		
第 3 学 期	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習課題は提出します。欠席するとその分の提出物がなくなります。 2 欠席した時の分は、次の授業の前までに提出すれば、提出物として受け取ります。 3 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返ります。				
	【第2学期の評価方法】 1 提出作品、授業への遅刻欠席、授業内で行われる小テスト、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況（欠席・忘れ物・取り組み等）で10～20%の配分で行います。 3 提出作品については、作品の表装においては作品にあう印を作成することができたか、実用書についてはその書式を理解できたか、小作品については展示形態も含めた日常の中での書の生かし方を考え表現することが出来たかが評価の基準となります。				
第 3 学 期	6	実用の書 ・ 祝儀袋の書き方等 ・ 日常生活の中の書	1	祝儀袋の書き方等の決まりを知り、筆を用いて正しい形式で書けるようにさせる。 日常生活の中で生かされている書作品について興味関心を持って鑑賞し、日本文化としての書の意義を理解させる。	
			2		
			3		
第 3 学 期	【課題・提出物等】 1 毎時間の学習課題は提出します。欠席するとその分の提出物がなくなります。 2 欠席した時の分は、次の授業の前までに提出すれば、提出物として受け取ります。 3 毎時間の最後に「自己評価」を行い、その日の取り組みを振り返ります。				
	【第3学期の評価方法】 1 提出作品、授業への遅刻欠席、授業内で行われる小テスト、用具用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品・小テストで80～90%、授業への参加状況（欠席・忘れ物・取り組み等）で10～20%の配分で行います。 3 提出作品については実用の書においては祝儀袋の用い方の決まりを知り、正しく丁寧に書くことができたか、日常生活の中の書においては書が日常生活の中で生きていく意義を考えることが出来たかが評価の基準となります。				
【年間の学習状況の評価方法】 下記の4つの観点から評価した1学期、2学期、3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。					

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といった様々な要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。 ・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・心を落ち着ける環境でなければ良い書は書けません。互いの上達のためにも、授業中の私語は慎んでください。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・毎時間の課題は提出することが基本です。「自分自身が納得いくものが書けなかったから」と提出しないことのないようにして下さい。納得が行くまで書きたい人は申し出てくれれば、時間を設定します。 ・とにかく「休まず」きちんと取り組むことです。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・仮名の臨書や創作作品製作を通して、書写能力を高め、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 ・作品の表装を通して、自らの作品をその意図に従って表現するために書の表現に関心を持ち、意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 ・実用のある書を通して、日常生活の中で生きる日本の伝統的な書之美に関心をもち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。 ・書活動全体を通して、意欲的に取り組んでいるか。
芸術的な感受や表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を豊かにし、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているか。
創造的な表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・創作作品の制作活動（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）を通して自己を主体的に表現する能力を伸ばし、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けているか。 ・小作品の作品制作を通して、表現の幅を広げ、創造的な表現の技能を身につけているか。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わっているか。

3 担当者からのメッセージ

- 書道Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をさらに深めます。さまざまな表現や技能があることを知り、身に付けてください。
- 授業時間の中での進歩、単元を通しての進歩、学期を通しての進歩、そして、1年間の学習を通しての進歩が感じられるような学習への取り組みを期待します。
- 書道Ⅲの学習を通して、生涯にわたり書に親しむ気持ちを持てることを希望します。
- 技術を磨くことはもちろんですが、「素直に物事を捉える目」を培い、自分の中にある表現の幅を広げ、書への理解を深めてください。